# 音楽の諸要素の働きを根拠に作曲者の意図に迫り、音楽鑑賞の楽しさを体感する子の育成
## ―１年『曲想から役柄を探る－魔王－』の実践を通して―

西尾市立西尾中学校での実践


1　はじめに
2　研究の構想
3　研究の実践
4　研究の成果と今後の課題



第７分科会
音楽教育

花井　朋美　（西尾・西尾中）

研究の概要報告

コロナ禍による制限が徐々に緩和されるなか、コロナ禍以前とは異なる工夫を凝らした実践、とりわけＩＣＴ機器を効果的に活用した実践が数多く報告された。

討論では、「他教科・領域、地域の特色と関連させた音楽教育のあり方」「音楽教育におけるＩＣＴ機器などの効率的な活用方法」の二つの視点を柱として意見交換がなされた。

「他教科・領域との関連」では、さまざまな教科・領域との具体的な関連について意見が出された。国語科との関連で言語活動を充実させることは、他の場でも自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞き入れたりすることにつながる。今回の報告では、対話の場面が多く見られた。音楽を形づくっている要素と感じ取ったこととを関連づけて知識を広げたり、思考を深めたりするために、言語活動の充実は欠かせない。図画工作科との関連においては、絵画の鑑賞から音楽をつくる活動や、曲想に合ったＣＤジャケットづくりの活動など、「芸術」として共通する部分をいかすよさについて発表された。いつ、どの題材・単元と関連づけるか見通しをもって、細かな計画を立てる必要がある。

「地域の特色との関連」では、地域の祭りと連携するよさについての意見が出された。今回の報告の中で「おまつりの音楽」の実践も数点見られた。子どもたちにとって地域の祭りは身近なものであり、具体的なイメージができるため、より明確な思いをもたせることができる。その思いを実現しようと主体的に活動にとりくむことができる。音楽科の資質・能力を高めるだけでなく、いっそう地域への愛着をもつことにつながる。これを実現するためには、教員が地域の実態を把握する必要があることが確認された。

「ＩＣＴ機器などの効率的な活用」では、機器を使う利点や課題について議論された。ＩＣＴ機器は、記録性、操作性、即時性があるという意見が出された。記録後すぐに確認したり、変容を把握したりすることは技能を高める上で有効である。また、習熟度に応じて、再生速度を変えたり、聴きたい部分を繰り返し再生したりすることも利点である。さらに、音楽づくりの活動においては、音の高さや長さが視覚的にわかる点や自動再生できる点をいかし、誰もが抵抗なくつくることができるため、試行錯誤の時間を確保できるという報告もされた。ＩＣＴ機器の活用は目的ではなく手段であることを再確認し、個の活動に偏ることなく、協働的に活動できるようにしていく必要があることが共通理解された。

今後、本教育研究で論じられたこれらの成果をさらに深めていきたい。第 73 次へとつないでいきたい主な課題は以下の２点である。

○　子どもたちの主体的な音楽表現につながるＩＣＴ機器の効果的な活用

○　コロナ禍における、音楽教育と地域とのかかわり　　（川合恒之・市場剛介）

報告書のできるまで

第 72 次教育研究愛知県集会に、18 本のリポートが提出された。これらは、第 71 次までに積み上げられた課題にもとづいて、各分会から、各単組の研究集会を経て高められたものである。新型コロナウイルス感染症が拡大する中において、さまざまな感染対策を講じたり、音楽の授業のあり方を工夫したりするなど、音楽の授業を通してどんな子どもを育てたいのか、そのために身につけさせたい力とは何かを明らかにし、めざす子どもを育てるためのてだてや工夫が多数報告された。

この報告書は、西尾市立西尾中学校・花井朋美教諭が、「音楽の諸要素の働きを根拠に作曲者の意図に迫り、音楽鑑賞の楽しさを体感する子の育成―1 年『曲想から役柄を探る－魔王－』の実践を通して―」の実践研究を単組集会・県集会での報告や討論を参考にし、次の諸先生方の指導を得て、作成したものである。

| | | |
|---|---|---|
| 助　　言　　者 | 川合　恒之（名古屋音楽大学） | 市場　剛介（名古屋・大森小） |
| 教育課程研究委員 | 佐藤　裕佳（名古屋・星ヶ丘小） | 福田　純也（名古屋・守山中） |
| | 近藤　章博（蒲郡・塩津中） | 長瀬　麻美（稲沢・祖父江中） |
| | 寺澤真知子（知教連・阿久比中） | 梶野　琴絵（刈谷・平成小） |
| | 後山あかね（名古屋・丸の内中） | 中島　明子（豊田・逢妻中） |
| | 澤下　了輔（愛知・(豊明)栄小） | |

## 1　はじめに

本学級の子どもは、音楽を聴くことに対して意欲的である。ヴィヴァルディ作曲「春・第１楽章」を鑑賞した際には、「お城で踊っている曲みたい」「明るい街を散歩しているみたいで、わくわくする感じ」など、曲を聴いて思い浮かべた情景を素直に書く子どもが多かった。しかし、強弱の変化や音色の特徴などの音楽の諸要素に着目して鑑賞することができる子どもは少数であった。そこで、曲を聴いて描かれている物語や情景を自由にイメージすることのできる子どもが、音楽の諸要素に着目し、作曲者が何を表現しようとしてその作品をつくったのかという意図にまで迫ることができるようになれば、これまでよりもさらに音楽を聴くことの楽しさを実感することができると考えた。

このような実態から、本実践では、音色や強弱、速度などの諸要素がどのような働きをもっているのか、作曲者はそれらの働きを用いてどのような雰囲気を生み出そうとしたのかを追究していく。そうすることで、主題に迫っていくことができると考えた。そこで、上記のような研究主題を設定した。

## 2　研究の構想

### （1）めざす子ども像

研究主題に迫るため、本研究でめざす子ども像を次のように設定した。

①音楽の諸要素に着目し、それらの要素の働きと曲想を結びつけて聴くことができる子
②諸要素の働きがもたらす効果に気付き、作曲者はそれらの働きを用いてどのような雰囲気を生み出そうとしたのかという意図に迫りながら、楽しんで聴くことができる子
③今後の音楽活動において、鑑賞して学んだことを表現活動にいかすことができる子

### （2）研究の仮説とてだて

めざす子ども像に迫るため、研究の仮説とてだてを次のように設定した。

仮説Ⅰ：鑑賞する曲に出会う場面において、作曲者が表現しようとした感情や情景、世界観についてのイメージを膨らませる活動を取り入れることで、その後の鑑賞を通して作曲者の意図に迫ろうという気持ちを高めることができるだろう。

てだて①ドイツリート『魔王』を鑑賞するにあたり、『魔王』の世界観をイメージすることで曲に興味をもたせることができるように、詩の内容を描いた絵を活用する。

仮説Ⅱ：歌曲を繰り返し鑑賞する場面において、音楽の諸要素の働きを手がかりにしながら登場する役柄の特徴や心情を探ることで、それぞれの諸要素と曲想とを結びつけて聴くことができるようになり、作曲者の意図に迫りながら楽しんで聴くことができるようになるだろう。

てだて②『魔王』の原語で書かれた楽譜を見ながら、それぞれの旋律が具体的にどの役柄を表しているものであるのかを追究し、ＩＣＴ機器を活用して学級全体で話し合う。
てだて③諸要素の特徴に着目しながら役柄ごとの気持ちの変化に伴って音楽がどのように変化しているかを追究する。

仮説Ⅲ：既存の歌曲を歌う場面において、その曲に合った音楽の諸要素を自分自身で考えてみるという経験をすることで、諸要素の働きがもたらす効果をより実感し、表現活動にも学んだことをいかすことができるようになるだろう。

てだて④日本歌曲『赤とんぼ』の強弱記号が書かれていない楽譜を配付し、歌詞や旋律の特徴に合った強弱を自分自身で考える活動を行う。

（3）本研究における抽出児Aについて

Aは音楽の授業に意欲的にとりくむことができる。一学期にヴィヴァルディ「春」を鑑賞した際には、真剣な表情で耳を傾け、「お城で踊っているみたい」など、感じたことをたくさんワークシートに書いた。しかし、音楽の諸要素に関心を寄せて鑑賞する力はまだ不足していると感じた。A には、本単元での学習を通して、音楽の諸要素を根拠に鑑賞することで音楽の奥深さや面白さに気付き、これまでよりもいっそう音楽の楽しさを実感してほしい。

3　研究の実践

（1）楽曲へのイメージを膨らませ、作曲者の意図に迫ろうという気持ちを高める子

ア.『魔王』ってどんな曲だろう－ドイツリート『魔王』との出会い－（てだて①）

単元の導入として、まずは、『魔王』の詩の内容を描いた絵を見て、気付いたことを話し合う活動を行った。『魔王』はドイツの有名な文学者であるゲーテが作詞をし、シューベルトが作曲をしたドイツリートである。『魔王』には、語り手、父、子、魔王の４人の人物が登場する。父は子をしっかりと抱き、森の中で馬を走らせる。魔王は子を連れ去るために甘い言葉で誘惑するが、父には魔王が見えない。子は恐怖に怯え、必死になって父に助けを求める。子どもたちには、まず『魔王』の世界観についてのイメージを自由に膨らませてほしいと考えた。また、その後の鑑賞にいかせるようにするために、詩の内容や登場人物どうしの関係をしっかりと理解できるようにすることを本時のねらいとした。

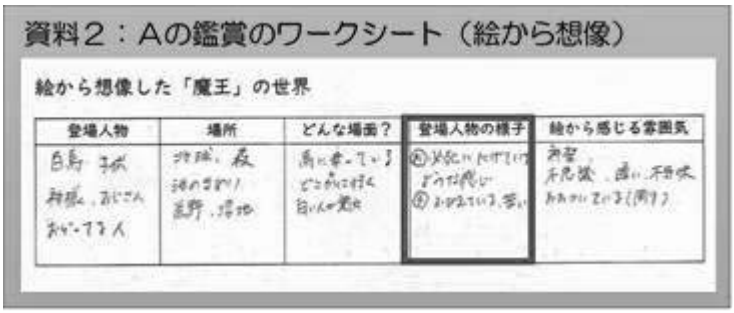
資料１：「魔王」の詩の内容を描いた絵

まずは、曲名をあえて伝えずに「魔王」の詩の内容を描いた絵を提示した（資料１）。子どもたちは黒板に貼りだされた絵を見ると、「怖い」「何か白い幽霊みたいなのがいる」「子どもがすごい顔してる」などと、第一印象を口々につぶやいた。そこで、「これから、『春』のときのように、『魔王』という曲の鑑賞の授業をしていくよ。ドイツ語の曲だけれど、音楽を聴いて『魔王』の物語の内容や役柄について探っていくよ」と話し、単元名「役柄から魔王を探る－魔王－」を板書した。

音楽の特徴を手がかりにして『魔王』について探っていくという課題をもった子どもたちに、ワークシートを配付し、絵から想像したことを自由に書かせた。その際、できるだけ具体的にイメージすることができるように、①登場人物、②場所、③場面、④登場人物の様子、⑤絵から感じる雰囲気の５つの項目に分けて書けるようにした（資料２）。

子どもたちは、ワークシートにも記載された絵をじっくりと見ながら、想像したことをもくもくと書いていた。A は登場人物の様子について、「(父は）必死に逃げているような感じ、(子は）怯えている、苦しい」と書いた。このことから、絵を見て『魔王』の世界観について自由にイメージを膨らませることができたことがわかる。

資料２：Aの鑑賞のワークシート（絵から想像）



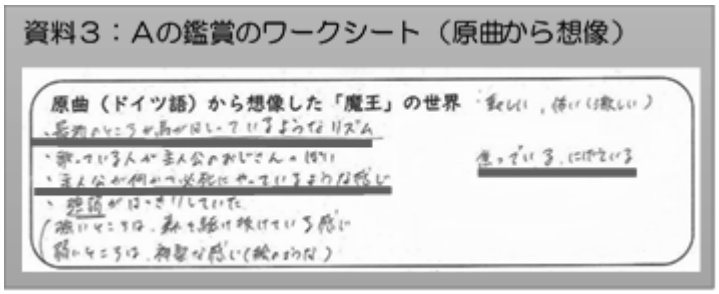
絵から想像した「魔王」の世界

| 登場人物 | 場所 | どんな場面？ | 登場人物の様子 | 絵から感じる雰囲気 |
|---|---|---|---|---|
| 白馬 子供 神様、おじさん おかーさん | 沖縄、森 海のすぐ近く 草野、湿地 | 馬に乗っている どこかに行く 白いの悪い | ①必死ににげている ような感じ ②おびえている、苦しい | 神聖 不思議、暗い、不安 おびえている(怖い) |

子どもたちは、ワークシートにも記載された絵をじっくりと見ながら、想像したことをもくもくと書いていた。A は登場人物の様子について、「(父は）必死に逃げているような感じ、(子は）怯えている、苦しい」と書いた。このことから、絵を見て『魔王』の世界観について自由にイメージを膨らませることができたことがわかる。

絵から想像したことについて学級全体で話し合うと、「白い人（魔王）から逃げている」「焦っている感じがする、緊迫感がある」「不気味、恐ろしい」などの意見が多数出てきた。

資料３：Aの鑑賞のワークシート（原曲から想像）



原曲（ドイツ語）から想像した「魔王」の世界

・長調かと思うが高がはいっているようなリズム
・歌っている人が主人公のおじさんの様子
・主人公が何かつ必死にやっているような感じ
・物語がはっきりしていた
（強いそこちは、森を駆け抜けている感じ
弱いそこちは、神聖な感じ（絵のような））

絵から『魔王』の世界観を自由に想像した子どもたちに、「次は音楽から想像してみよう」と声をかけ、原曲（ドイツ語）の音源を再生した。すると、

曲が始まってすぐに何人かの子どもが「怖い」と呟いた。資料３は、Ａが原曲を聴いて感じたことをメモしたワークシートである。「最初のところの馬が走っているようなリズム」「主人公が何か必死にやっているような感じ」「焦っている、逃げている」と書かれていた。

これらのことから、Ａは絵を見たり原曲を聴いたりしながら、『魔王』の世界観を自由に想像し、楽曲に興味をもつことができたといえる。

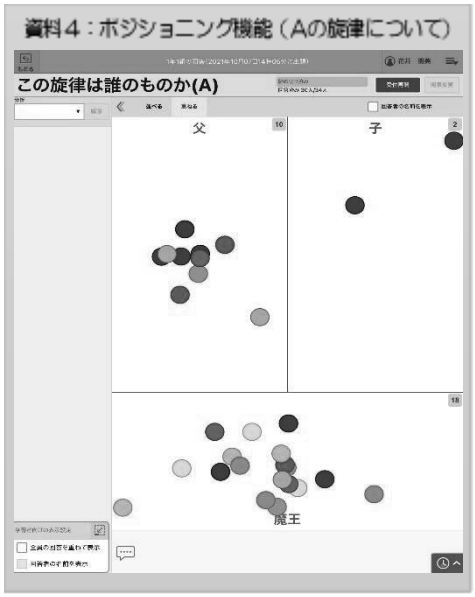
（２）音楽の諸要素の働きをヒントにしながら、諸要素と曲想とを結びつけて聴く子

ア．この旋律はどの役柄を表しているものだろうか－ＩＣＴを活用した学び合い－（てだて②）

『魔王』は、４人の役柄の旋律をバリトン歌手が一人で歌いわけている。本時では、語り手の旋律以外の１１種類の旋律をＡ～Ｋに分類し、それぞれの旋律がどの役柄を表しているのかを考えていくことで、音楽の諸要素を根拠に鑑賞できるようにすることをねらいとした。

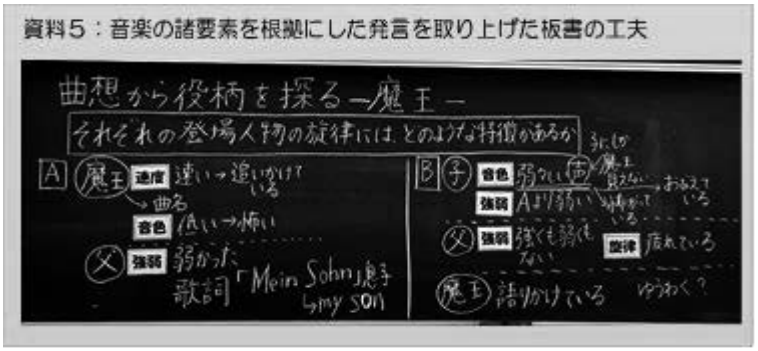
楽曲のイメージを膨らませ、役柄どうしの関係をしっかりと理解した子どもたちに、「この曲、何人で歌っていると思う」と問いかけた。そして、原曲（ドイツ語）の前半部分を再生した。すると、子どもたちからは「一人だ」「え、四人じゃないの」「三人な気がする」とさまざまな予想が出てきた。

資料４：ポジショニング機能（Ａの旋律について）



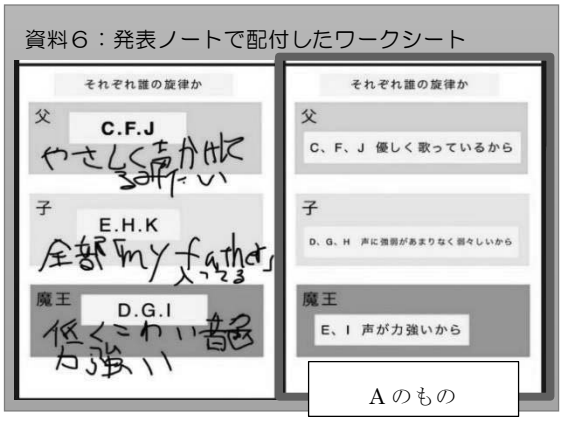

そこで、『魔王』は４つの役柄を一人の歌手が歌っていることを伝え、「今から流す旋律は、父か子か魔王のうち、誰だと思う」と問いかけた上でＡの旋律を流した。冒頭のＡとＢの旋律については、子どもたちが諸要素の働きと関連づけて分析できるように、タブレットで自分の考えをポインターで示させ、学級全体でその考えを共有した（資料４）。教員機の画像をモニターにミラーリングして示したため、子どもは学級の仲間がどのように聴き取ったのかをすぐに確認することができた。資料４から、多くの子どもが「父」または「魔王」ではないかと考えていることがわかる。なぜそう考えたのかを問うと、「速くて、追いかけている感じがしたから、魔王だと思った」「声が低かったから」「ちょっと弱いから、優しい感じがした。だから、お父さんだと思います」などと、「速度」や「音色」、「強弱」などの音楽の諸要素の働きを根拠にした意見が出てきた。このような要素の働きを根拠にした発言を工夫して板書することで、分析をする際の着眼点を明確にするようにした（資料５）。

資料５：音楽の諸要素を根拠にした発言を取り上げた板書の工夫



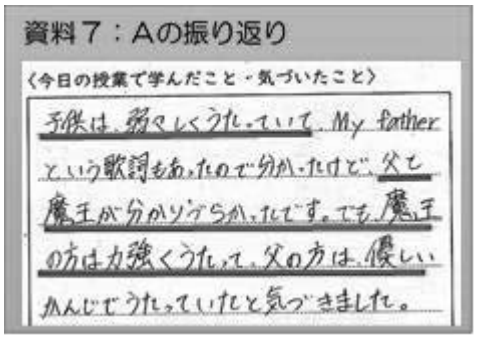

導入場面で二つの旋律の分析を全員で行った後、発表ノートで教員が作成したワークシートを配付し、すべての旋律についてどう判断するか、個人でまとめる学習活動を行った。子どもたちには、あらかじめ配付してあった楽譜を見ながら、ワークシートに示された「父」「子」「魔王」の枠に、それぞれの旋律のアルファベットを入力するように指示した。さらに「なぜそのように分析したのか、理由も書き加える」という指示を出した。子どもたちは、ペン機能や文字機能を用いて、自分のワークシート

資料６：発表ノートで配付したワークシート




Ａのもの

に分析の根拠を入力した（資料６）。ワークシートを見ると、「やさしく声（を）かけているみたい（だから父の旋律だと思う）、低くこわい音色、力強い（から魔王の旋律だと思う）」などと書かれており、子どもたちは日本語訳がわからない状態で役柄を探ることで、音楽の諸要素を手がかりにして考えることができた。Ａのワークシートにも、「優しく歌っているから（父の旋律だと思う）、声に強弱があまりなく弱々しいから（子の旋律だと思う）」と書かれていた。授業の振り返りには、「子どもは弱々しく歌っていて、[中略]父と魔王はわかりづらかったです。でも、魔王のほうは力強く歌っていて、父の方は、優しいかんじでうたっていたと気付きました」と書かれており、主に強弱の違いから役柄を探ったことがわかる（資料７）。


資料７：Ａの振り返り

〈今日の授業で学んだこと・気づいたこと〉

子供は、弱々しくうたっていて、My father という歌詞もあったので分かったけど、父と魔王が分かりづらかったです。でも、魔王の方は力強くうたって、父の方は、優しいかんじでうたっていたと気づきました。

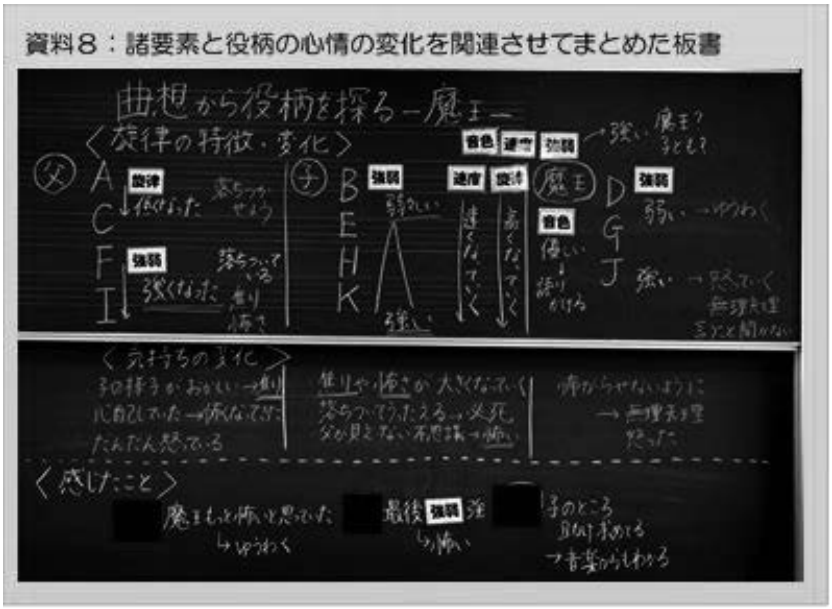
これらのことから、Ａは、声（音色）や強弱といった音楽の諸要素を根拠に鑑賞することができたといえる。

イ．それぞれの役柄の気持ちはどのように変化しているだろうか（てだて③）

前時の子どもたちの発問やワークシート、振り返りの記述を分析した結果、どの子どもも音楽の諸要素を根拠に自分の考えをもつことができたことがわかった。一方で、実際にＡ～Ｋの旋律を父、子、魔王の三役に分類することについては難しく、学級全体で意見を出し合った後にもさまざまな考えが混在したままであった。声が高いこと（音色、音域）や歌詞（Mein Vater が My father と聞こえること）を手がかりにして、子の旋律を導き出すことはできた。しかし、資料７のＡの振り返りにもあるように、声が低い父と魔王の旋律を聴き分けることが難しかったようだ。また、「父＝優しい」「魔王＝恐ろしい、力強い」という印象があったため、低い声で旋律の上がり下がりが少ない父の旋律と、明るく弱い声で子を誘惑する魔王の旋律とを誤認する子どもも多くいた。

そこで本時では、まず日本語訳を配付し、歌詞を読みながらＡ～Ｋが誰の旋律なのかを確認した。その際、「自分の考えが間違っていた」と鑑賞する意欲が下がってしまう子どもが出てくることが心配であったため、「音楽の諸要素をヒントにして考えることが今回の授業での目標であったため、正解不正解にこだわる必要はない」ということを伝えた。子どもたちは教員のその言葉を頷いて聞いていた。

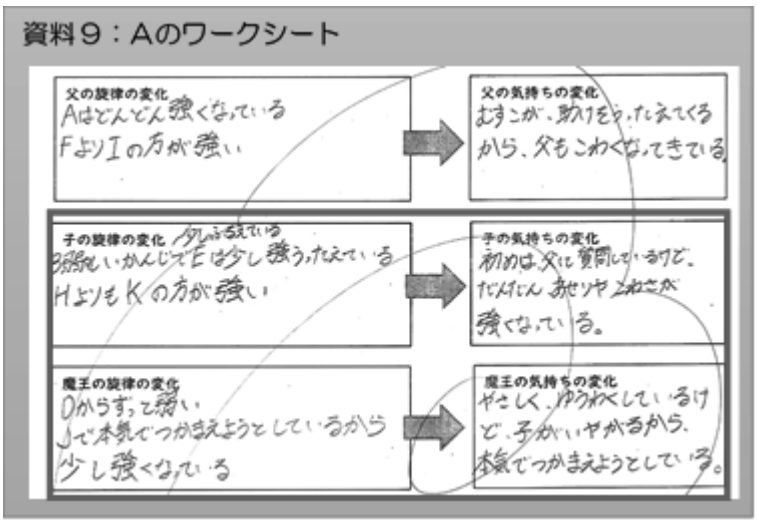
次に、音楽の諸要素の働きを手がかりにしながら、それぞれの役柄の心情の変化を探る活動を行った。そうすることで、前時よりもさらに諸要素と曲想とを結びつけて聴くことができるようになることを本時のねらいとした。全員が音楽の諸要素を根拠にして鑑賞することができるように、まずは父の旋律（Ａ、Ｃ、Ｆ、Ｉ）の変化について学級全体で考える時間を設けることにした。Ａから順に父の旋律を再生し、気付いたことを問うと、「Ａと比べて、Ｃの旋律は音が低くなった」「最後のＩの旋律は、それまでよりも強くなった」という意見が出た。そこで、「シューベルトは、こういう音の高さや強弱などの諸要素の働きを使って、父のどんな気持ちの変化を表現しようとしたんだろう」と問いかけた。すると、音が低いことから、父が子を落ち着かせようと冷静に話しかけている様子、最後のＩの旋律になると強くなることから、子の様子がおかしいことに父も焦りや怖さを感じた様子であるという意見が出た（資料８）。最初はどのよ



資料８：諸要素と役柄の心情の変化を関連させてまとめた板書

うに課題にとりくめばよいのかわからない様子であった子どもも、友だちの意見を聞き、板書を見たことで、諸要素と人物の気持ちの変化を結びつけて考えるということを理解したようであった。そこで、子の旋律（B、E、H、K）と魔王の旋律（D、G、J）については自分自身で考え、ワークシートに書くように伝えた。資料９は、Ａのワークシートである。子や魔王の旋律について、強弱に着目して鑑賞し、子の焦りや恐怖が増していること、魔王ははじめ優しく誘惑しているが、最後には本気で捕まえようとしていることなどを聴き取ることができたことがわかる。

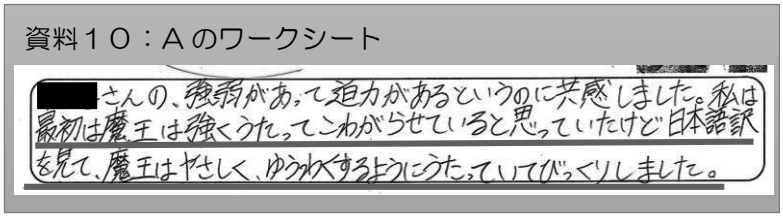
資料９：Ａのワークシート




その後の学級全体の話し合いでは、強弱や速度、旋律、音色を根拠に、さまざまな意見が活発に出てきた（資料８）。諸要素の働きを手がかりにしながら、それぞれの役柄の心情の変化を探ることができたことがわかる。

子どもたちの振り返りを見ると、「歌い方を少し変えるだけでこんなにも曲想が変わって、聴いていて楽しかったです」「曲の中にいろいろな工夫があったり、役によって音程、音色や気持ちが考えられていたり、興味が引かれるいい曲だなと思います」「他の人もみんな登場人物の気持ちが伝わってくると言っていて、こんなにたくさんの人に音楽で登場人物の気持ちやその場の空気を伝えられるのはすごいと思いました」「ドイツ語の歌詞で言葉の意味はわからなかったのに、音楽だけで場面が想像できたので、作曲したシューベルトさんはすごいと思いました」などと書かれていた。資料１０は、Ａの振り返りである。「最初は魔王は強くうたってこわがらせていると思っていたけど、日本語訳を見て、魔王はやさしく、ゆうわくするようにうたっていてびっくりしました」と書かれている。

資料１０：Ａのワークシート



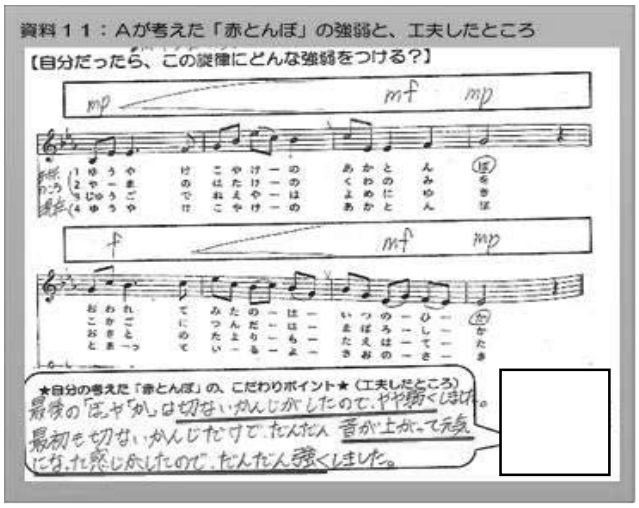

これらのことから、Ａは歌詞の内容を理解し、前時よりもさらに諸要素と曲想とを結びつけて聴くことができるようになったといえる。

（３）鑑賞して学んだことを表現活動にいかす子

ア．作曲家の弟子になろう－日本歌曲『赤とんぼ』での実践－（てだて④）

「先生、もう『魔王』は聴かないんですか」音楽室に入ってきた子どもが声をかけてきた。本単元で何度も鑑賞するうちに、『魔王』を好きになった子どもがとても多くなったようだ。「Mein Vater！Mein Vater！」と、子の旋律を歌う子どもも見られるようになった。鑑賞の授業を通して、作曲者が意図して音楽の諸要素の働きをいかして音楽をつくっていることを知った子どもたちには、諸要素の働きがもたらす効果をより実感し、表現活動にも学んだことをいかすことができるよう

資料１１：Ａが考えた「赤とんぼ」の強弱と、工夫したところ



になってほしいと考えた。そこで、日本歌曲『赤とんぼ』の強弱記号が書かれていない楽譜を配付し、歌詞や旋律の特徴に合った強弱を自分自身で考え、実際に歌ってみるという活動を行った。

資料１２：Aの振り返り

♫今日の振り返り♫（学んだこと・気づいたこと）
私と同じで、最後は切ないかんじがしたから弱くする人もいて、逆に違う人もいたので、おもしろかったです。気づいたことは、最初は弱くしている人がいて、全体的に、強いのかと思ったけど曲に山があって意味を考えたらおもしろかったです。

まず、教員が『赤とんぼ』を範唱し、歌詞の内容を確認した。次に、ワークシートを配付し、個人で強弱記号を考える活動を行った（資料１１）。Aは「切ない感じがしたので、やや弱く」「音が上がって元気になった感じがしたので、だんだん強く」と書いており、自分なりの意図をもって曲想を表現しようとしていることが伝わってきた。

授業の後半には、近くの席の友だちとワークシートを見せ合って考えを共有したり、実際に友だちが考えた強弱で歌ってみたりした。資料１２は、Aの振り返りである。「私と同じで切ないかんじがしたから弱くする人もいて、逆に違う人もいたので、おもしろかった」と書いていた。さらに、「曲に山があって」と書かれており、旋律の音の上がり下がりの特徴に気付くこともできたこともわかる。その他の子どものワークシートには、「『赤とんぼ』はとてもゆっくりで里ののどかな感じと寂しい感じを表していると思った。情景を想像できる曲をつくった山田耕作さんはすごいと思う」「自分で強弱をつけてみて、ふだん何気なく聴いている音楽にもそれぞれ作曲している人が考えて強弱をつけていることに気付きました。これからはそこを気にしながら聴いてみるのも面白いかなと思いました」などと書かれていた。

これらのことから、作曲者が何を表現しようとしてその作品をつくったのかという意図に迫ることができるようになり、これまでよりもさらに音楽を聴くことの楽しさを実感することができるようになったといえる。

イ．クラスでの合唱に学んだことをいかしたい－単元を終えた子どもたちの変容－

鑑賞の単元を終えた１１月、市内の新型コロナウイルスの感染者も連日０人となり、安心して合唱練習することができるようになった。合唱コンクールは中止となってしまったが、合唱することの喜びを体感してほしいと考え、クラス曲を決めて三部合唱を行うことにした。授業の振り返りを呼んでいると、「この曲は勇気づけてくれるような曲なので、優しいけれど強く歌いたい」「強く歌ったほうが歌詞のように一歩踏む出す感じでいいかなと思う」「音が高くなっているところの強弱記号に気をつけて歌った」など、歌詞の内容や楽譜に書かれた強弱記号に関心を寄せて、それを表現しようとしていることが伝わってきた。資料１３を見ると、「フォルテがあるところは強く歌うことを意識しました」などと書いており、Aも諸要素の働きをいかして表現しようとしていることがわかる。多くの子どもが本実践で学んだことをこれからの音楽表現にいかそうとしていることがわかり、うれしくなった。

資料１３：Aのワークシート

| 月日 | 今日の振り返り |
|---|---|
| 11/21 | 今日は1番から2番まで音とりの練習をして拍をのばすところや、fがあるところは強くうたうことを意識しました。 |

4　研究の成果と今後の課題

（1）てだてと仮説の有効性

＜てだて１＞

『魔王』の詩の内容を描いた絵を活用したことで、曲についての自由にイメージを膨らませることができた。その結果、子どもたちが『魔王』に興味をもち、その後の鑑賞の授業に子どもの意欲を繋げることができた。

→授業実践３（1）ア

＜てだて２＞
　『魔王』の原語で書かれた楽譜やＩＣＴ機器を活用したことで、それぞれの旋律が誰のものかを追究することができた。その結果、音色や強弱といった音楽の諸要素を手がかりにして鑑賞することができた。
→授業実践３（２）ア

＜てだて３＞
　音楽の諸要素の働きを手がかりにしながら、それぞれの役柄の心情の変化を探る活動を行った。その結果、前時よりもさらに諸要素と曲想とを結びつけて聴くことができるようになった。
→授業実践３（２）イ

＜てだて４＞
　日本歌曲『赤とんぼ』の強弱を自分自身で考える活動を行った。その結果、諸要素の働きがもたらす効果をより実感したり、作曲者の意図に迫ったりすることができるようになった。
→授業実践３（３）ア

（２）今後の課題
　本実践を通して、曲を聴いて自由にイメージするのみであった子どもたちが、音楽の諸要素に着目して鑑賞できるようになり、作曲者の意図に迫ることができた。その結果、音楽の奥深さに気付き、これまでよりもさらに音楽を聴くことの楽しさを実感することができたのではないかと手ごたえを感じている。
　しかし、音楽の諸要素に着目すること（知覚）を大切にするあまり、音楽そのものの美しさやよさを素直に感じ、伝え合うこと（感受）を置き去りにしてしまったという反省がある。これについては、今後も検討していく必要がある。
　そこで、以下のことを今後の課題として、中学校の音楽活動をすすめていきたい。

| |
|---|
| 　鑑賞の授業をするにあたり、諸要素に着目して知覚する場面と、楽曲のよさにふれて感受する場面との両方を大切にする授業をするには、どのように単元を構想するとよいか。 |